



JASDAQ

平成 26 年 11 月 11 日

各 位

会 社 名 岡本硝子株式会社

代表者名 代表取締役社長 岡本 毅

(JASDAQ・コード 7746)

問合せ先 執行役員 法務・コンプライアンス部長

井野 政之

電 話 04-7137-3113

特別利益及び特別損失の発生、平成 27 年 3 月期第 2 四半期業績予想と

実績値との差異並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 27 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間において、特別利益及び特別損失を計上するとともに、平成 26 年 8 月 11 日に公表いたしました平成 27 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、お知らせいたします。

また、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 27 年 3 月期通期の連結業績予想につきましても修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別利益の発生

平成 27 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間において、当社の持分法適用関連会社である JAPAN 3D DEVICES 株式会社が行った第三者割当増資及び当社による JAPAN 3D DEVICES 株式会社への知的財産権の現物出資により発生した持分変動利益 70 百万円を特別利益として計上いたしました。

2. 特別損失の発生

「その他」の区分に含まれるフリット(ガラス粉末)について、新規事業として顧客獲得に注力し、多くの需要者から引き合いを受けておりますが、サンプル出荷から量産出荷への移行が想定より遅れております。このため、平成 27 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間において、「その他」の区分に含まれるフリット生産設備の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額 76 百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

3. 平成 27 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想と実績値の差異

(平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 3,041	百万円 60	百万円 30	百万円 6	円 銭 0.38
実績値 (B)	3,100	13	49	22	1.43
増減額 (B-A)	59	△47	19	16	
増減率 (%)	1.9	△78.3	63.3	266.7	
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 26 年 3 月期第 2 四半期)	2,762	△305	△267	△184	△11.58

差異の理由

売上高については、反射鏡の受注と生産がともに好調なことなどにより予想を 59 百万円上回りました。

営業利益については、前期の営業損失の主たる原因であったコンデンサレンズ(フライアイレンズの製品カテゴリーに含む)の歩留りが、計画どおり改善しております。一方で、マルチレンズ(フライアイレンズの製品カテゴリーに含む)の受注が増加しており、これに対応するため、平成 26 年 8 月より共用炉である C5 炉でマルチレンズの生産を開始いたしました。また、当社グループの生産能力を超えたフライアイレンズの蒸着加工に関しては、輸出先の現地外注業者の活用を進めております。

このように、C5 炉でのマルチレンズ生産の立ち上げにおいて歩留りが一時的に低下したことと、生産コストの削減及び海外外注分については仕掛品での評価となるため在庫 1 個あたりの帳簿価額が低下し、売上原価は予想を上回りました。これらにより営業利益は予想を 47 百万円下回りました。

現在では、C5 炉の歩留りは回復しつつあり、海外外注への切替えに伴う在庫棚卸金額の減少による影響も顧客への販売により解消しております。

経常利益については、対 US ドル為替相場において円安が進み、為替差損益が改善したことなどにより予想を 19 百万円上回りました。

四半期純利益については、上記 1.及び 2.により予想を 16 百万円上回りました。

4. 平成 27 年 3 月期通期連結業績予想の修正

(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 6,183	百万円 160	百万円 39	百万円 10	円 銭 0.63
今回修正予想 (B)	6,183	114	58	26	1.63
増 減 額 (B-A)	—	△46	19	16	
増 減 率 (%)	—	△28.8	48.7	160.0	
(ご参考)前期実績 (平成 26 年 3 月期)	5,827	△509	△412	△378	△23.74

修正の理由

上記 3.の通り、平成 27 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の実績は前回予想と比べて、フライアイレンズの売上原価の上振れなどにより営業利益が下回り、円安による為替差益などにより経常利益は上回りました。

フライアイレンズの売上原価の上振れ要因は、上記 3.の通り、現在では、概ね解消しております。

これらにより、通期の業績予想を上表数値の通り修正いたします。

以上